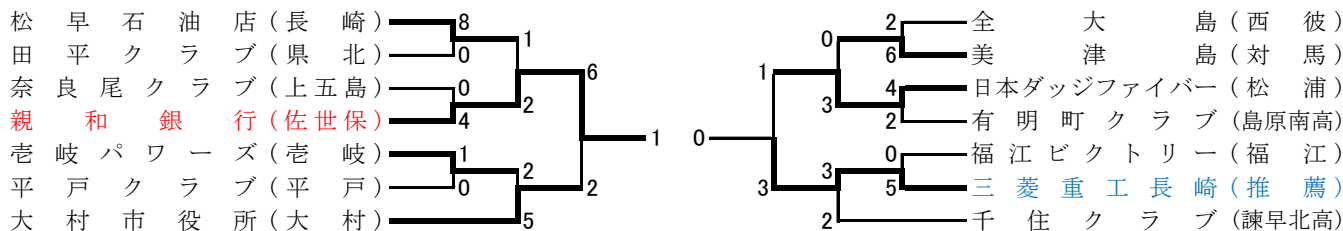


# 親和銀行が三度目の決勝戦進出で三菱重工を倒して初優勝

## 第26回長崎県軟式野球選手権大会

会期 昭和51年10月9日(土)～12日(火)  
会場 長崎市営大橋球場



この年より、平戸、松浦、県北の3支部は単独参加となる。

第26回県軟式野球選手権大会は9日、長崎市営大橋球場で開幕。1日までの三日間にわたる熱戦の火ブタを切った。天気は前日来の雨が残るあいにくのコンディション。午前8時半から開会式が行われたあと晴れ間の見えた午後から試合開始。予定されていた6試合のうち3試合だけが行われた。第1試合は西彼代表の全大島と対馬代表・美津島の離島チーム同士の対戦。全大島押し気味の試合展開も後半に入って美津島の打線が活発化。全大島に守備の乱れもあって計6点を奪い最終回全大島の反撃を2点に抑えて快勝した。第2試合の島原南高代表・有明町クラブと松浦代表・

日本ダッジの対戦は双方譲らないまま七回を終わり大会規定の一死満塁制が取られ、先攻の有明町が二塁打で2点を奪ったのもつかの間、その裏に日本ダッジの先頭打者永利が左翼席へ見事な本塁打をたたき込んで試合を決めた。第3試合の長崎代表・三菱重工長崎と福江代表・福江ビクトリー戦も、両チームがっぷり四つに組んだまま日没で暮れていく中を七回まで双方得点なし。ついに二日目の10日に一死満塁制を適用した特別継続試合で決着をつけることになった。

(昭和51年10月10日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 阿比留米が先制打 全大島 前半の逸機に泣く

【一回戦】=第1試合= 振球犠盗失残

全大島	000 000 2	2	3	1	0	0	6	2
美津島	000 213 X	6	4	4	1	1	1	6

1時間10分

◇捕逸:阿比留米、島袋

【三】久永 【二】阿比留米、石川、下山

【美津島】打安点

【大 島】打安点

② 島袋	3 0 0
⑥ 谷口	3 0 0
⑧ 久永	3 1 0
③ 佐藤	3 1 0
⑤ 下山	3 1 1
⑨ 田島	3 0 0
④ 開	2 1 0
4 宮崎	1 0 0
① 西川	3 0 0
⑦ 松崎	1 0 0
25 4 1	

【評】美津島は四回、先頭の島袋が二塁左を抜いて出塁。続く石川の三ゴロを併殺を焦った下山が二塁へ悪送球。石川二盗の無死二三塁で阿比留米が見事に左中間を破って二者生還し待望の先取点を挙げた。さらに五回は四球と捕逸の小島を二塁に置き石川が左翼頭上を越える二塁打を放って1点。六回にも大島守備陣の乱れに2安打を絡めてダメ押し3点を加えた。大島は二三回の先制機を何れも盗塁死で逃がしたのが痛かった。美津島・吉野のカーブに六回まで2安打しか奪えず、土壇場の七回に久永の三塁打と下山の二塁打で2点を返したにとどまった。



吉野生還 美津島6回二死一二塁、吉本の中前打で吉野生還し4点目

⑥ 田中	3 0 0
⑦ 吉本	4 1 0
⑨ 神宮	4 1 1
③ 小島	2 1 0
⑧ 石川	3 1 1
② 阿比留米	2 1 2
④ 阿比留善	3 0 0
① 吉野	2 0 0
⑤ 犬東清	2 1 0
25 6 4	

## 死闘七回譲らず

### 永利、逆転本塁打

【一回戦】=第2試合= 振球犠盗失残

有明町クラブ	000 000 02	2	4	2	1	1	0	6
日本ダッジファイバー	000 000 04x	4	5	3	1	2	1	7

【有明】打安点

【日本ダ】打安点

① 金子	2 0 0
⑥ 松本	2 0 0
⑤ 竹之内	3 1 0
⑨ 吉田朝	3 0 0
⑧ 吉田正	3 0 0
② 本多	2 2 0
③ 高見	3 1 0
④ 長野	3 0 0
⑦ 酒井	2 0 0
H 伊達	1 0 0
7 加藤	0 0 0
24 4 0	

⑦ 尾野	4 0 0
③ 諸石	2 0 0
⑤ 永利	3 0 0
① 岩本	2 1 0
⑥ 吉田	3 0 0
② 田川	2 1 0
R3 志水	0 0 0
④ 森田	3 1 0
⑧ 平田	3 0 0
⑨ 田淵	2 1 0
24 4 0	

### 規定の一死満塁制 有明、2点もつかの間

【本】永利=参考 【三】岩本  
【二】田川、竹之内=参考  
◇守備妨害:岩本 1時間31分

【評】両チーム決定打を欠き無得点のまま七回を終了。規定により一死満塁制で雌雄を決することになった。先に竹之内の二塁打で2点を奪われた日本ダッジは永利を先頭打者に送った。それまで無安打の永利は2-2からのカーブを真芯でとらえ大きな弧を描いて左翼席へ飛び込むサヨナラ・満塁・逆転本塁打。日本ダッジは劇的な幕切れで初戦を飾った。有明もベテランエースの金子を押し立てて健闘したがダッジの左腕岩本を打ちあぐみ散発4安打。七回には一死二三塁の好機に後続が倒れ、惜しい試合を失った。

### 2試合も決着戦

○…第2試合の有明クー日本ダッジ戦は0対0で七回を終わりに一死満塁制による決着戦。まず有明クが二塁打で2点を先取すれば、その裏に日本ダッジは満塁本塁打が飛び出し劇的なサヨナラ勝ち。七回の熱闘が一瞬にして決着がつくこの制度。見た目にはランナーが塁を埋めクリーンアップが打つので華やかだがやっている選手たちにとっては

たまらない。負けたチームに出るのはタメ息ばかり。ところが最後の試合の三菱重工ー福江ビクトリー戦もゼロを積み重ねて七回を終った。またしても一死満塁制度。なんだかサッカーのPK戦を見ているような錯覚にとらわれる。この試合の決着戦は日没のため翌日に持ち越されて熱戦を繰り広げた選手たちを泣かせた。



大会第2日は10日午前10時41分から大橋球場で一回戦3試合と二回戦1試合が行なわれた。体育の日にふさわしく朝から秋晴れの上天気。前日の雨で湿っていたグラウンドも程よく乾き絶好のコンディションで熱戦を繰り広げた。

第1試合に先立って1日目に日没のため特別継続試合となった三菱重工長崎ー福江ビクトリーの決着戦があった。一死満塁制で激しい攻防を続けた結果、通算10回表にあたる三度目に三菱がやっと5点を奪い、福江の反撃を無得点に抑えて二回戦進出を決めた。

続いて行なわれた第1試合は地力に勝る松早石油が田平クラブ守備陣の乱れに計9本の長短打を絡ませて五回までに8点を奪ってコールド勝ち。第2試合は奈良尾クラブが優勝候

補の一角、親和銀行に挑戦したが親和のソツない攻撃や宮崎の2点本塁打などで敗退した。一回戦最後の試合は老岐パワーズが平戸クラブに対し初回の1点を守り切って勝った。

第4試合から二回戦に突入し、対馬代表の美津島と松浦代表の日本ダッジが顔を合わせた。試合は美津島・吉野と、日本ダッジ・岩本の投げ合いとなったが日本ダッジは五回に疲れのみえた吉野の崩れに乗じて3点を奪い、終盤美津島の反撃を岩本の力投でかわした。

同日予定されていた三菱重工長崎ー千住クラブの対戦は、試合進行の遅れから日没試合が予想されたため、大会3日目の第1試合に延期された。

(昭和51年10月11日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 継続試合 三菱重工に軍配

【一回戦】=継続試合= 1時間51分 振球犠盗失残 【本】川上=参考

三菱重工長崎	000 000 000 5	5	6	3	0	2	0	4
福江ビクトリー	000 000 000 0	0	4	0	0	0	3	3

(延長8、9、10回は一死満塁制)

【評】福江の善戦が最後まで前年度優勝チームを苦しめた。三菱の打線が湿っぽく、福江の平山に散発2安打に抑え込まれる貧打ぶり。一死満塁を重ねること三度、やっとの思いで逃げ切った。

前半はむしろ福江ペース。二回には先頭の中村が中前打。内野ゴロで二進し先制機をつかんだが後続が凡退して逸機。五回は二死から平山が右中間三塁打して三菱の川上を苦しめたがあと一発がなく崩せなかった。

三菱には前年優勝チームの精彩なく無造作にゼロを重ねるだけ。最終七回の一死三塁が唯一のチャンスとあっては心もとない。

翌日に持ち越した延長八回からの一死満塁制による特別継続でも、三菱はもたついた。10回表に上内がまずスクイズを決めて1点。二死後に川上が右中間に満塁本塁打を放ってケリをつけた。福江の平山の好投が光った。

【三菱】打安点	【福江】打安点
⑦上内 3 0 0	⑧江頭 3 1 0
⑥岩崎一 2 0 0	③大川 3 0 0
⑨井上 3 0 0	⑦木場 3 0 0
①川上 3 0 0	⑥中村 3 1 0
⑧森山 2 0 0	⑨中里 3 0 0
H5橋本 1 0 0	⑤坪内 2 0 0
②井戸口 1 0 0	4久保 1 0 0
H2榎並 1 1 0	④5橋本 1 0 0
③岩崎信 3 0 0	①平山 2 1 0
④8野原 2 0 0	②山内 2 0 0
⑤4桜木 2 1 0	
23 2 0	23 3 0

## 8年ぶり出場の親和銀行

【一回戦】=第2試合= 振球犠盗失残 【本】宮崎  
 親和銀行 101 020 0 4 3 2 1 2 0 5 【三】坂井  
 奈良尾クラブ 000 000 0 0 9 1 0 1 1 5 【二】一の間

【評】8年ぶりに出てきた親銀がソツない試合運びで勝った。初回トップ小栗が右前に転がしすかさず二盗。一の間の送りバントは野選で一三塁。ここで一の間が二盗を狙い挟殺される間に小栗が本塁を陥れた。三回は先頭の一の間が左二塁打、二者凡退後に宮崎の右前打で2点目。五回には二死後に香田が四球、宮崎が左越え2ランして試合を決めた。

守っては松尾義、宮本の継投で奈良尾打線を散発5安打に完封した。奈良尾は親銀の2投手にバットが合わず三塁を踏めないでは試合にならず、力を出せないまま敗退した。

ソツない攻め

奈良尾を下す

【親銀】打安点	【奈良尾】打安点
⑧小栗 4 1 0	⑧森 3 1 0
⑨一の間 3 1 0	⑤4金崎 3 0 0
⑦坂井 4 1 0	⑥津田 3 2 0
⑤香田 2 0 0	①金丸 3 0 0
③6宮崎 3 2 3	⑦金子 2 0 0
②松尾敏 3 0 0	②宮崎 3 1 0
⑥林 2 0 0	③浜山 3 1 0
H3岩佐 1 0 0	④戸崎 1 0 0
①松尾義 1 0 0	H5本村 2 0 0
H小森 1 0 0	⑨浦口 2 0 0
1宮本 0 0 0	25 5 0
④富永 3 1 0	
27 6 3	1時間26分

【松 早】打安点

②	酒 田	2	3	1	1
⑤	石 本	3	2	1	
⑦	山 崎	2	0	0	
③	大 塚	3	1	1	
⑨	酒 田 年	2	1	1	
H	川 村	1	1	0	
R9	橋 本	0	0	0	
④	宮 永	3	1	1	
⑧	吉 田	2	1	0	
8	松 添	1	0	0	
①	増 丸	0	0	0	
H	岩 本	1	0	0	
1	浜 田	0	0	0	
H	高 橋	1	1	1	
1	永 江	0	0	0	
⑥	平 井	3	0	0	
		25	9	6	

# 松早石油コールド勝ち 大塚が大会初ホームー

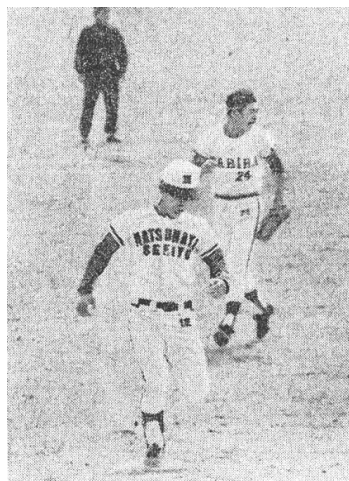
【一回戦】=第1試合= 振球犠盗失残

松 早 石 油	221 03	8	3	1	1	6	1	4
田 平 ク ラ ブ	000 00	0	4	1	1	1	4	4

【本】大塚【三】石本【二】吉田、石本

【評】松早は初回二死から四球の山崎が大塚の左飛失で長駆生還し先取。続く酒田の右前打で2点目を挙げた。二回には吉田の左線二塁打を足場に1番酒田の内野安打と石本の左中間三塁打で2点を加えた。三回にも敵失から1点をつかみ、五回は大塚の大会第1号本塁打に、3安打を続けて3点奪ってコールドを決定づけた。

田平は一、二回に先頭打者を出しながら松早の堅守を破れず、四回の無死一二塁の反撃機も後続3人が凡飛に打ち取られ、ついに三塁を踏めなかった。三回までの5失点はいずれも二死から奪われたもので肝心なときに守備の乱れも出て松早を調子づかせた。



松早石油2回表一死三塁。酒田正二の捕前小飛球が内野安打となる間に三塁から吉田が生還し3点目。

【田 平】打安点

⑦	柴 山	3	1	0
④	田 川	1	0	0
②6	中 村	2	0	0
⑥1	坂 本	1	0	0
⑫	島 本	2	1	0
③	小 島	2	0	0
⑧	山 崎	2	1	0
⑨	近 藤	2	0	0
⑤	阿 比 留	1	0	0
H	江 川	1	0	0
		17	3	0

(1時間11分)

【平 戸】打安点

⑤	浦 田	3	1	0
⑦	真 辺	3	0	0
⑥	正 木	3	1	0
⑨	新 地	3	0	0
③	早 田	2	1	0
R	宮 田	0	0	0
⑧	高 本	3	0	0
②	石 田	3	1	0
①	宮 本	1	0	0
④	中 川	1	0	0
		22	4	0

# パワーズ 丸尾が好投、1点守りぬく

【一回戦】=第3試合= 振球犠盗失残 1時間4分

平 戸 ク ラ ブ	000 000 0	0	5	1	2	3	0	4
壱 岐 パ ワ ーズ	100 000 X	1	1	1	1	0	0	5

【二】丸尾

【評】平戸が初回に無死一塁の好機を逃したその裏に壱岐は二死から丸尾が左越え二塁打で出塁。続く加藤が右翼線いっばいに落として1点を挙げた。結局この1点が最後までものをいった。平戸も三、六回を除いて毎回先頭打者を出したがパワーズのエース丸尾の力感あふれる投球と懸命に盛り立てる守備陣に阻まれて得点できない。四回の一死二塁、五回の一死二塁も後続を断たれ、七回に先頭が四球で出た最後の反撃機は代走の宮田が一死後に二盗死して実らなかった。初回以降は平戸が押し気味の試合展開だっただけに惜しまれた。

【壱 岐】打安点

⑧	西	3	0	0
⑦	米 倉	3	0	0
①	丸 尾	3	2	0
②	加 藤	3	2	1
⑨	市 岡	3	0	0
④	川 上	2	0	0
⑥	篠 原	1	0	0
③	本 田	2	0	0
⑤	伊 佐 藤	2	1	0
		22	5	1

# 日本ダッジ、準決へ 美津島も力いっばい戦う

【二回戦】=第4試合= 振球犠盗失残

日 本 ダ ッ ジ フ ァ イ タ ー	000 030 0	3	8	5	1	0	0	5
美 津 島	000 000 0	0	9	2	0	1	0	2

1時間9分

◇捕逸:阿比留米2

【日本ダ】打安点

⑦	尾 野	3	1	0
③	諸 石	4	1	2
⑤	永 利	3	0	0
①	岩 本	2	0	0
⑥	吉 田	2	0	0
②	田 川	2	0	0
④	森 田	3	1	0
⑧	平 田	2	0	0
⑨	田 淵	2	1	0
		23	4	2

【評】投手戦の試合も相手投手の崩れに乗じた日本ダッジがワンチャンスを生かし勝ち進んだ。日本ダッジは五回一死後見事な攻めを見せた。森田が右中間安打するとそれまで好投していた美津島の吉野が大きく崩れた。平田以下に3連続四球を与え押し出し。ここでカサにかかって攻め吉野が苦しまぎれにストライクを取りにきた球を諸石が左に2点打。その後は立ち直った吉野を打てなかつただけにこの回の攻撃は値千金。

一方、美津島は好投手岩本のカーブに手を焼き三振を重ねて計9個。たまに塁に出ても併殺でチャンスをつぶした。しかし遠来のチームは力いっばいのプレーを見せ好感を呼んだ。



2点目 日本ダッジ5回裏一死満塁。諸石の左翼越え打で三塁から平田生還。後方は3点目の田淵。

【美津島】打安点

⑥	田 中	3	0	0
⑦	吉 本	3	0	0
⑨	神 宮	2	0	0
③	小 島	3	2	0
⑧	石 川	2	0	0
H	上 野	1	0	0
②	阿 比 留 米	3	0	0
④	阿 比 留 善	3	1	0
①	吉 野	2	0	0
⑤	犬 東 清	1	1	0
		23	4	0

大会第3日目となった11日は、前日に続いて朝から秋晴れの好天気。スタンドには熱心なファンも陣取って盛んな声援を送り、懸命に白球を追う選手たちを励ました。試合は午前

9時から二回戦の残り3試合と準決勝2試合の5試合が行なわれた。  
(昭和51年10月12日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

# 守備乱れ逆転ファイ 千住ク好投馬場報われず

【千住】打安点

⑧千住	3	0	1
⑤池田	3	1	1
②田中正	3	1	0
⑦石原	2	1	0
⑨東	3	0	0
④藤山	3	1	0
⑥吉岡	2	0	0
①馬場	2	0	0
③小島	1	0	0
<hr/>			
	22	4	2

【二回戦】=第1試合= 振球犠盗失残

千住クラブ	002	000	0	2	8	3	1	0	3	3
三菱重工長崎	100	010	1x	3	4	2	1	2	0	4

1時間17分

【三】藤山、榎並

【評】2-2で同点の七回、三菱重工は先頭の代打野原が四球。続く榎並の打球は右翼頭上をワンバウンドで抜けてフェンスまで達する三塁打。野原が還ってサヨナラ勝ちした。試合はむしろ千住が押し気味。1点リードされた三回には四死球に2安打を絡めて2点を奪って逆転。一時はこのまま押し切るかと思えたが、五回二死から失策により同点とされた。初回の1点も二塁手と遊撃手が譲り合った内野安打に捕手の二塁悪送球が続いてスクイズを決められたもの。最終回のライトの守備も含め守備陣が好投のエース馬場をもう少し盛り立てれば、と惜しまれた。

【三菱】打安点

⑦上内	2	1	0
⑨井上	3	0	0
⑥岩崎一	2	1	1
①川上	3	0	0
⑤橋本	3	0	0
⑧森山	3	0	0
③岩崎信	2	0	0
H野原	0	0	0
②榎並	3	2	1
④桜木	2	1	0
<hr/>			
	23	5	2

【二回戦】=第2試合= 振球犠盗失残 1時間21分

松早石油	000	010	00	1	5	1	1	0	1	1
親和銀行	100	000	01x	2	1	4	0	0	1	6

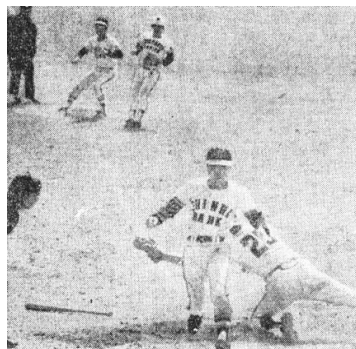
【三】香田

打撃妨害:酒田正

(延長8回一死満塁制)

【評】七回まで両チーム1-1のまま譲らず大会規定の一死満塁戦。松早は3番の強打者・酒田兄を打者に送ったがスクイズを2回失敗したあと三振。大塚も三ゴロに倒れて無得点。これに対し親和銀行は4番香田に期待をかけた。香田のあたりはバット先端のあたり損ねの三ゴロとなり三塁手が懸命のバックホームも間に合わず三走が還ってサヨナラゲームとなった。

先手を取ったのは親和。初回二死一塁から香田の中越え三塁打で先制。松早は親銀・宮本のカーブを打ちあぐんでいたが、五回一死二塁で永江が痛烈に三塁線を破って同点に追いついた。だが安打はこの1本だけで宮本のカーブにてこずり涙をのんだ。



【松早】打安点

⑦山崎	2	0	0
⑤8石本	3	0	0
②酒田兄	3	0	0
③大塚	3	0	0
⑨吉田	1	0	0
H岩本	0	0	0
1増丸	1	0	0
①5永江	2	1	1
⑧松添	2	0	0
9酒田弟	0	0	0
⑥平井	2	0	0
④宮永	2	0	0
<hr/>			
	21	1	1

【親和】打安点

⑧小栗	3	0	0
⑦坂井	2	1	0
⑨一の間	3	1	0
⑤香田	3	1	1
⑥宮崎	1	0	0
③岩佐	3	0	0
②松尾敏	2	0	0
①宮本	3	0	0
④富永	3	0	0
<hr/>			
	23	3	1

一死満塁制の8回裏の親和は香田の三塁ゴロで三塁から小栗が還ってサヨナラ。

親銀  
松早にサヨナラ勝ち

# 大村、初回に先制点 パワーズ 終回の好機逸す

【大村】打安点

⑦前川	3	0	0
⑨5橋本	4	0	0
⑥2雄樹	3	2	0
⑧徳久	4	2	1
⑤6新高	4	1	1
①西	4	1	2
②津田	2	1	0
9山崎	0	0	0
④阿部	3	1	1
③今里	3	0	0
<hr/>			
	30	8	5

【二回戦】=第3試合= 振球犠盗失残 1時間34分

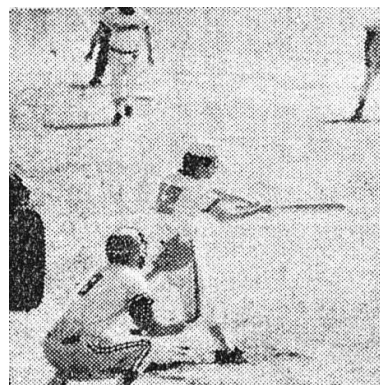
大村市役所	104	000	0	5	4	3	0	0	0	7
壱岐パワーズ	002	000	1	3	3	2	0	3	2	8

【三】雄樹

【二】西、米倉

【評】初回に2安打で1点先取した大村は三回に2四球の一死一二塁で徳久が右前に弾き返し二走を迎え入れた。二死後に西の左中間二塁打で二者を還すと、津田も右前に連打し、この回に4点を挙げた。パワーズの池田は第1戦ほどの球速がなく制球を乱したところをつけ込まれた。

壱岐も三回に反撃し二死から西が安打し二盗。米倉の左越え二塁打で西が還り、丸尾も適時打して計2点。最終回には米倉の四球を足場に丸尾、加藤の連打で1点を返したが惜しくも二死後から。二三塁の一打同点機も市岡が遊ゴロに倒れてしまった。



【壱岐】打安点

⑧西	3	1	0
⑦米倉	3	2	1
①丸尾	4	2	1
②加藤	3	2	1
⑨市岡	3	1	0
④川上	3	0	0
③篠原	3	1	0
⑥本田	3	0	0
⑤伊佐藤	3	0	0
<hr/>			
	30	9	3

大村市役所3回表二死一三塁。阿部の一打は幸運な内野安打となり三塁の西が還り5点目

【日本ダ】打安点

⑦尾野	4 0 0
③諸石	3 1 0
⑤永利	3 3 1
①岩本	3 0 0
⑥吉田	3 0 0
②田川	3 1 0
④森田	2 1 0
R志水	0 0 0
⑧平田	2 0 0
H国生	0 0 0
⑨田淵	3 1 0
26 7 1	

# 三菱、逆転勝ち 鮮やかなタイムリー

【準決勝】=第4試合= 振球犠盗失残 1時間20分

日本ダッジファイター	100 000 0	1	4	3	0	0	3	7	【三】永利
三菱重工長崎	000 210 X	3	1	0	3	1	0	2	【二】橋本、永利

【評】1点を追う三菱は四回、先頭の上内が右前打。バント二進後に三ゴロで飛び出し二死一塁となったが、川上の三ゴロを一塁手が落球し一三塁。ここで橋本が左翼線2点二塁打して逆転に成功した。さらに五回には安打と敵失で得た好機をスクイズでものにし1点加えた。日本ダッジは初回に安打の諸石を永利の右中間三塁打で還し先制した。その後も毎回のように走者を出したが決定打がなく最終回の二死二三塁の一打同点機も諸石が遊ゴロに倒れ追いつけなかった。

【三菱】打安点

⑦上内	3 1 0
④桜木	2 0 0
⑥岩崎一	3 1 0
⑦川上	3 0 0
⑤橋本	3 1 2
②榎並	2 0 0
⑨野原	2 1 0
3岩崎信	0 0 0
①大村	1 0 0
1梅川	0 0 0
③9井上	1 0 1
20 4 3	

【親和】打安点

⑧小栗	5 2 1
⑦坂井	5 1 0
⑤香田	3 1 2
③岩佐	2 1 0
①9宮崎	3 2 0
⑨2一の間	4 1 1
②松尾敏	3 1 0
H小森	1 0 0
1松尾義	0 0 0
⑥大道	1 0 0
6林	2 0 0
④富永	4 1 0
34 10 4	

# 親銀10安打で6点 大村の反撃2点どまり

【準決勝】=第5試合= 振球犠盗失残 1時間33分

親和銀行	220 100 1	6	2	3	1	5	0	11	【二】小栗
大村市役所	200 000 0	2	7	3	1	0	4	2	香田

【評】親銀は10安打にうまい走塁を織り交ぜて計6点を奪い、守っては2投手が2安打に抑える力投で決勝進出を決めた。

親銀は初回に先頭の小栗が三塁線を破る二塁打。続く坂井の中飛で果敢に三塁を奪い香田の中犠飛で生還。岩佐が四球後に宮崎と一の間の一打で2点目を奪った。さらに二回は小栗の安打を間に四球と敵失も絡んで2点。四回と七回にも1点ずつを加えて、大村の西投手に10安打を浴びせ6点をもぎ取った。

大村も初回にすぐ反撃し立ち上がり不安定な親銀・宮崎から連続四球を得、雄樹の右前打と徳久のスクイズで同点とした。しかし二回以降は立ち直った宮崎に3人ずつで打ち取られ七回の代打攻勢も代わった松尾義に三者三振を喫して敗退した。

【大村】打安点

⑦前川	2 0 0
⑤橋本	2 0 0
②雄樹	3 1 1
⑧徳久	2 0 1
⑥新高	1 0 0
H津田	1 0 0
①西正	2 1 0
H渡海	1 0 0
⑨葉山	1 0 0
94山崎	1 0 0
H小林	1 0 0
④阿部	1 0 0
H9西孝	1 0 0
③今里	1 0 0
3永尾	1 0 0
21 2 2	



## 昭和51年の各大会戦績

### 天皇賜杯第31回全日本軟式野球大会【52チーム】

- 【一】親和銀行 7-0 高崎信用組合(群馬)
- 【二】" 1-3 岡山機関区(岡山)

### 常陸宮賜杯第12回全日本準硬式(6.20~・札幌市ほか)

- 【一】親和銀行 13-1 鶴岡ヤングース(山形)
- 【二】" 1-5 千葉相互銀行

### 第31回佐賀国体【28チーム】は不出場

### 高松宮賜杯第20回全日本(青森県)には不出場

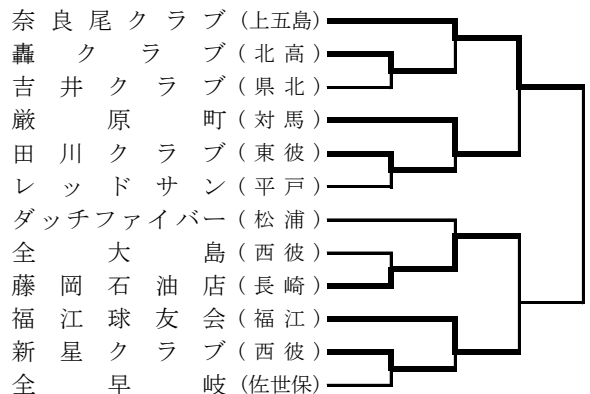
### 高松宮賜杯第20回全日本1部県大会(7.3~4・大村)

(九州大会が長崎会場のため2チーム代表)



### 高松宮賜杯第20回全日本2部県大会(大村)

(一回戦の4試合のみ 7/4に開催 7/11~12)



### 第28回県民体育大会(11.2~・諫早) 優勝: 南高来郡

第26回県軟式野球選手権大会の最終日は第1日目の雨天により1日順延して12日(火)午前9時2分より決勝戦が行なわれ、県北と県南を代表する両雄の対戦で優勝旗が争われた。両チームともがっぷり四つに組んで延長戦に入り、10回表に親和銀行が2長短打で1点を先取し、その裏の三菱重工の追撃を堅い守りで振り切って初の栄冠を勝ち取った。

試合終了後に閉会式が行われ、松浦継義・県軟式野球連盟

会長から親銀の曾木監督に表彰状、富永内野手に優勝旗が手渡され、三菱の岩崎内野手、川上投手にそれぞれ表彰状と準優勝旗が贈られた。最後に松浦会長があいさつに立ち「今年は参加チームも増え、意義ある大会だった。緊迫した優勝戦に表れているようにレベルは上がっている。これからも努力を重ねてより立派なチームに育て欲しい」と激励した。(昭和51年10月13日付けの長崎新聞より抜粋)

# 佐世保・親和銀行が初優勝

延長10回に決勝点

【決勝】 (延長10回) 振球犠盗失残 1時間48分

親和銀行	000 000 000 1	1	5	0	0	1	1	5
三菱重工長崎	000 000 000 0	0	4	0	0	0	2	2

【二】香田、小栗、松尾敏

## 宮本好投 三菱重工長崎の連覇阻む

【評】両チーム互いに譲らぬまま0-0でもつれ込んだ延長戦も、十回表に親銀が長短2安打と盗塁で貴重な1点を奪いその裏に執拗に食い下がる三菱の反撃を振り切って見事に初優勝を勝ち取った。

十回の親銀は先頭の宮崎がいい当りの右直に倒れたあと、一の間は投手頭上を抜く中前打を放ち、続く松尾敏への1球目に果敢な二盗に成功。ここで松尾は見事期待にこたえ右中間を破る二塁打で一の間を迎え入れた。

昨年度優勝の三菱もすかさず反撃。一死後に岩崎が中前に弾いて長打で同点と迫った。しかし4番川上の打球はセンター正面を突き、橋本も中飛に倒れて連続優勝はならなかった。

九回までは横手から丁寧にコーナーを突く親銀の宮本と、カーブを主体に速球を散らす三菱の川上。両投手の投げ合いで、双方決め手をつかめないまま。三菱は二回と四回に先頭打者を安打で出しながら二度とも併殺でチャンスをつぶし、三回と九回には二死から二盗を失敗したのも痛かった。



アウト！ 親銀7回一死三塁。宮崎の投前スクイズで三塁から香田がホームを突くも間一髪遅く先取点を逃す。

### 【親和】打安点

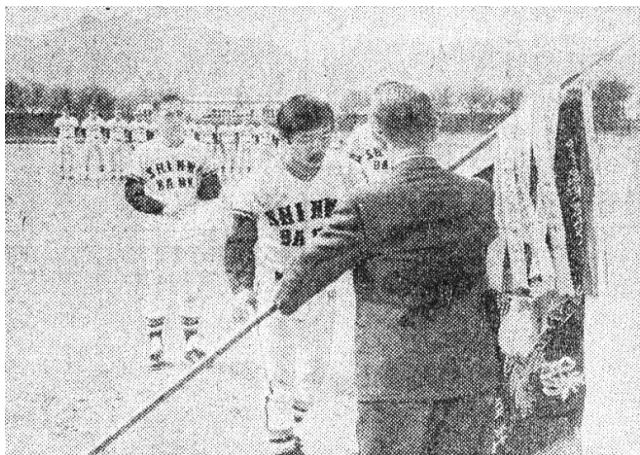
- ⑧ 小栗 4 1 0
- ⑦ 坂井 4 1 0
- ⑤ 香田 4 2 0
- ③ 岩佐 4 0 0
- ⑥ 宮崎 4 0 0
- ⑨ 一の間 4 2 0
- ② 松尾敏 4 1 1
- ① 宮本 4 0 0
- ④ 富永 4 0 0

36 7 1

### 【三菱】打安点

- ⑧ 上内 4 2 0
- ③ 井上 4 1 0
- ⑥ 岩崎一 4 1 0
- ① 川上 4 1 0
- ⑤ 橋本 4 0 0
- ⑨ 森山 2 0 0
- 3 岩崎信 1 0 0
- ② 井戸口 3 0 0
- ⑦ 榎並 2 0 0
- H7 野原 1 0 0
- ④ 桜木 3 0 0

32 5 0



松浦県軟式野球連盟会長から優勝旗を受ける親和銀行の富永内野手。